

ちょっと立ち止まって

穴井 宏和*

(株)富士通研究所 / (独)科学技術振興機構

巻頭言の執筆依頼が来た。単に私が年をとってきてこのようなことを依頼される立場(順番)になったということであろうが、想定外であった。ともかく何を書こうかしばらく考えてみた。数式処理の発展と普及を図るため気の利いた提言でも颯爽と書ければよいところだろうが、これまでただ自分なりに精一杯疾走してきただけで、このようなことをじっくり考えたこともなくなかなか難しい。

そこで、よい機会だと思い、まず立ち止まって冷静な目で自分の足下をそして未来を見つめてみよう、自分自身に問いかけてみた。

研究者としては、“数式処理 (Computer Algebra)”はそもそもどういう学問であるのか? それに対して自分はこれまでどのような寄与をしてきたのか? そしてこれからどのような貢献ができるのか? また、そのためには今後どのような技能や知識を身につけなければならないのか?

また、企業人として、数式処理がこれまでにどの程度の効率化ひいては利益をもたらしたのか? また、今後もたらず可能性があるのか? そのためどのような投資や技術開発をこれからすべきか? など。

少し立ち止まって振り返るだけのことで簡単そうに思えて、これらの問いをまじめに受けるとじつは結構大変な作業であることがわかる。その内省の中で得られるのはとても大事なもので、数式処理の発展・普及に向けてもかなり有益なものを含んでいるように思える。

数式処理のさらなる発展のために、たまには日々の忙しさから抜け出し走り回るのをやめて少し立ち止まってみてはどうだろうか。そして(僭越ですが)上に述べたようなことを少し省みてはいかがでしょうか。実はそうすることが数式処理の発展の近道なのかもしれない。

*e-mail: anai@jp.fujitsu.com